

学校経営のポイント

“どの子ども輝ける”学校をめざしたい

若井 彌一

皆様、あけましておめでとうございます。

この1年も、心をこめて、全国の教職員の皆様に向な話題をお届けしたいと思います。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。(以下、本文は「である体」で述べます)

一瞬の華やかさを支える継続的な努力

女子フィギュアスケートの冬季オリンピック代表選手は、安藤美姫、浅田真央、鈴木明子の3名が選ばれることが決定した。3名とも、実力の高さ(総合力)がトップ水準にあることは、多くの国民が知っていることであるが、今回の代表選出には、教育的に見ても、参考となるところが大きい。

今年2月に開催予定のカナダ・バンクーバー冬季オリンピックの代表選考会(大会)が12月末に開催されたというのは、時期的に逼迫しすぎているのではないかという気もするが、それは今回の検討課題ではない。

注目したいのは、浅田真央選手の劇的なまでの復活である。いかに実力があると思われる選手であっても、常に余裕をもって常勝しているわけではない。それどころか、最初に決まっていた安藤選手も、最終選考会で決まった浅田選手・鈴木選手も、共通して「課題」を抱えていたのを、それぞれ克服しての代表選出であった。

とくに浅田選手については、実力があることは知られていても、今季前半戦での同情を誘うほどの極端な低調(不振)を乗り越えての快挙であった。安藤選手も、一時期の低調を耐えての自己鍛錬の結果であり、鈴木選手もまた然りである。

決まってみれば、3人とも実力者であることに違いないが、他の選手が代表に選ばれる可能性も十

分に予想された激戦の末であった。他者との戦いというよりも、自分自身との精神的な闘いが大きな要素であったかと思われる。

どの子どもそれぞれに輝けるように

今回、年始めの本紙で女子フィギュアスケート選手のことを話題にしたのは、これら3人の選手の並はずれた成果そのものを礼讃したいのではない。そうではなく、調子の悪い時期にも、自暴自棄にならずに耐えたから、次の目標を模索し続ける(努力を継続する)ことができる、という共通点に学びたいと考えてのことである。

競技スポーツの世界だけではない。世界的にみれば、約68億3,000万人もの人々が、それぞれ生まれ育った国・地域(社会)のなかで、さまざまな諸課題を抱えながら生きている。

筆者自身、昨年は予期せず、しばらくの入院生活を送る体験をした。そして、あらためて感じ、考えさせられたことは、人間、それぞれ、多くの場合、明日の可能性に期待を抱きながら、可能な努力をしているということである。

大規模な病院には、じつにさまざまな病気を患った軽重多様な患者と、それを専門的に支えている医師や看護師、さらには療法士等の方々が生活している。

学校は、病院とは目的を異にする「教育機関(施設)」であるが、学んでいる子どもたちの実力、関心・意欲、悩み等は、文字どおり多様である。各学校では、どの子どもも、それぞれに輝きを増すことができるように、多面的かつ組織的な指導と支援を展開できるように努める1年でありたい。

(わかい・やいち=上越教育大学長)

●1月29日発売! ただいま予約受付中! 教育法規の改正, 文教施策の展開に対応して増補改訂!

『増補改訂 図解・表解教育法規』 坂田仰/河内祥子/黒川雅子[共著]
B5判/256頁/定価3,150円

『スーパー教職大学院発進!』上越教育大学【編】A5判280頁・定価2,520円